

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104381
法人名	株式会社 ヨシケンコーポレーション
事業所名	グループホームいしい
所在地	〒791-1105 愛媛県松山市北井門3丁目14番28号
自己評価作成日	平成28年9月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

その方に応じた時間の流れの中、その方の意欲、気持ち、残存機能に、生活歴、趣味を勘案しながら生活の中でのハビリへ働きかける事を大切にしています。外出は、なじみの場所、行きたいところをその方に応じて外出しています。入浴は、モモ湯、ヨモギ湯、ゆず湯など季節に応じたお湯の楽しみや地域の行事、運動会、秋祭り、青空市など参加をしています又ホームの行事も夕涼み、そうめん流しなど地域の方との交流もおこなっています。移動販売のパン屋さんが月2回、販売に來られお好きなパンが購入できます。月に1回、園芸療法で季節の野菜、お花をうえたり、音楽療法で療法師の方と相談しながら、季節の歌、思い出の歌を歌いながら運動を行なっています。ご家族と一緒に過ごす時間を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成22年度から、週2～3回、利用者と一緒に散歩しながらゴミを拾う「プチ美化運動」を継続して行っており、今年7月の市民大清掃結団式の折りに優良団体として賞状をもらった。
5月に事業所で看取りを支援した事例がある。家族が泊まって支援できるように、寝具や食事の準備も行った。終末期が近くなった利用者については、体調等をみながら事業所側から提案して、利用者が娘さんやお孫さんと一緒に大好きなお好み焼きを食べにいけるよう支援したケースがある。
年1回、献立表を保健所の管理栄養士にみてもらい、アドバイスを受けている。調査訪問時には、台所のテーブルでお好み焼きを焼いており、利用者もエプロンを着け、一緒につくったり、できる様子を見たりしていた。
毎月、行事等がない3日間を選び、季節風呂の日を設けている。しょうが湯やゆず湯等、今月は、しょうが風呂を楽しんだ。入浴前には、効能等を利用者に伝えており好評のようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容を P R!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホームいしい

(ユニット名) 1ユニット

記入者(管理者)

氏名 河本 幸恵

評価完了日

28 年 8 月 30 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員に理念について考えてもらいそれをまとめたものを毎朝唱和し、職員全員で共有しケアの向上をできるようにしている。6カ月毎に人事考査の中で理念の振り返りをしている。	
			(外部評価) 「初心を忘れない 素直な心 思いやりの心」と事業所理念をつくり、居間に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 施設での大きい行事(夕涼み・そうめん流し・避難訓練)の際は近所の方にお声がけし参加を呼び掛けている、回覧板や町内会の行事にも進んで参加したりしている。散歩時にはゴミを拾ったり近所の方との会話したりと交流している。	
			(外部評価) 平成22年度から、週2～3回、利用者と一緒に散歩しながらゴミを拾う「プチ美化運動」を継続して行っており、今年7月の市民大清掃結団式の折りに優良団体として賞状をもらった。地元団体が琴や三味線、又、手品のボランティアに来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 行事の際、地域の方やボランティア交流の中で認知症の方と接してもらい理解や支援をしてもらい、また運営推進会議も活用し説明・勉強をおこなっている又中学校から依頼を受け学生へ福祉・認知症の人への理解方法の説明を行なっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で運営状況・活動内容・利用者状況・事故などについて報告したり話し合いや意見をもらったりしている。利用者様家族様にもなるべく参加していただくようにしている。そこで意見をいかせれるよう職員間でも話しあいサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 会議は、地区内にある系列小規模多機能事業所と合同で行っている。これまでは、公民館で会議を行っていたが、メンバーに事業所のことをより知ってもらえるように、6月の会議から開催場所を、事業所と小規模多機能事業所の交互で行っている。会議には、町内会長や民生委員、家族や利用者等が参加している。事業所から利用者の状況や活動を報告して意見や要望を聞いているが、意見は少ない。</p>	<p>地域住民や地元の関係者とのつながりを広げたり、深めたりできるような会議の工夫が期待される。又、意見を引き出せるように議題等も工夫して、さらにサービス向上につなげていってほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議やホームの行事などの際、日時の案内をさせていただき参加の際には、利用者様・職員と話す機会を作っていると、ともに事業所運営・利用者様・家族様への支援必要時介護保険課の担当者の方と連絡をとり助言をいただいている。生活保護受給者についても生活福祉課の担当者とは状況連絡をおこなっている。</p> <p>(外部評価) 夕涼み会開催時等には、市社協のおせたい通信や新聞を通じてボランティアを募集している。運営推進会議時には、地域包括支援センターの担当者が参加して事業所の取組みを聞いてくれている。地域の子どもや高齢者を見守る「まもるくんの家」「シニアまもるくん」に登録しており、玄関にステッカーを掲示して取り組みに協力している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日中は、玄関を開放している。外出しようとする利用者様、散歩やドライブなど気分転換を図れるようにしている。アセスメントをおこないケアの見直しをおこない行動の制限を行なわないよう取り組んでいる。研修や勉強会をおこない、身体拘束についての知識を職員がもてるようにしている。</p> <p>(外部評価) 法人の年間研修計画に、高齢者虐待と身体拘束について勉強する時間を採り入れている。同じ内容の研修を複数回行い、すべての職員が受講できるよう取り組んでいる。又、新人職員には、管理者が直接指導している。居室で転倒の心配がある利用者については、カンファレンスで検討して、ベッドをやめて畳を敷き、布団で休めるようにしていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修・勉強会をおこない虐待についての知識をもてるようにしている。 また参加できなかった職員も別の日を取り全員が学べるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会などで職員が理解できるように勉強している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は、利用者様・家族様がしっかり理解ができ不安なく入所できるように努めている。解約時も十分に説明を行い理解・納得を図っている。契約後も不安や疑問点を面会時や連絡時には、尋ねるようにしている。退居後も不安や疑問点がある場合連絡いただけるよう説明をおこなっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や行事(そうめん流し・夕涼み等)など家族様への参加を声かけをおこない家族様への要望・意見の確認に努めている。月1回の利用者様会議での利用者様に意見(行きたいところ・食べたい物・大切な思い出・場所等)を確認しケアに反映できるようにしている。また、アンケートなどで頂いた意見を運営推進会議で表せる機会を設け運営に反映できるよう努めている。 (外部評価) 家族には、夏のそうめん流し・夕涼み会・年末の餅つきの際に参加を呼びかけており、1~3名ほどの参加がある。調査訪問時に家族の来訪があり、職員が「ゆっくりしていきください」と声をかけていた。家族の中には、小まめな連絡やよく話を聞いてくれることについて、安心感を得ているような方が複数いる。	さらに、今回の家族アンケート結果を家族との信頼関係作りの取り組みの参考にはどうだろうか。家族は、利用者の暮らしをともに支えるケアパートナーでもあり、一緒に活動するような機会等も工夫してみたい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回職員会・主任会を開き、職員の意見や提案を話し合う機会を設けている。 また6か月に1回人事考査を行い意見等を伝え反映できるよう努めている。 (外部評価) 職員は、それぞれに委員会に所属して責任を持って取り組んでいる。健康栄養委員会の職員が献立を立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 6か月に1回人事考査を行い自己評価をするにつれ、職員1人1人が職務状態やケアを見直している。 代表者・管理者の評価も合わせ面談を行い職員の努力・目標を評価し給与や給料に反映している、目標に向け実践できるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に1回勉強会を行い、テーマに沿ってケアや業務の向上を目指している。外部から先生をお呼びし、勉強会を開いている。外部研修の参加も情報を提示し、希望職員には支援をおこなっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 行事の案内をお伝えし同業者との交流や互いの事業所へ訪問する機会を作っている。相互研修に参加し、他施設との意見交換をし、サービス向上に努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様の情報共有をおこない利用者様が入居前の日課や環境を大切にすることで利用者様の安心につなげられるよう努めるとともに職員が日々のかかわりを通して利用者様の変化(表情・動作)に気づけるように努めている。利用者様の情報を元に家族様に相談したりして、小さな変化にも気づけるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様のお気持ちをお聞きし職員間で共有できるよう努めている。面会時や電話での連絡時に医療面や近状をお伝えし家族様の要望や不安事を傾聴しながら関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者様、家族様の情報をもとに、まず必要としている支援(医療面・環境面等)を見極められるよう努めている。利用相談時、すぐ入居が難しい場合、利用者様家族様の意向をお聞きしたうえで他の施設の紹介する等の対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) その方の今までの生活を尊重し、その人らしく馴染みの空間を大切にし、日々を楽しくすごしていただけるように支援している。また、利用者様の要望に応えられるよう職員同士で話し合いを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様と利用者様の過ごす時間を大切にするため、来所された際は、話し合えるような環境を作っている。また、イベントの際は参加していただけるよう、積極的に連絡を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者様の今までの生活を維持することを大切に、馴染みの方との交流ができるような環境作りに努めている。 (外部評価) 地元からの利用者は、地域行事に出かけた際に知り合いと会うことが多いため、積極的に出かけられるよう支援している。個々の担当職員が利用者に年賀状を出す希望を聞き、サポートしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 自分から関わることの難しい方には、職員が間に入り、話をしたり、話題を提供しコミュニケーションが図れるように支援している。また、レクリエーションや家事、食事作りを通して、いい関係が築けるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も、その方の自宅を訪問したり電話をするなど、生活状況を確認し不安や悩みの相談を行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ひもときシートやアセスメント等その時の状況に応じて使用し、本人様や家族様のニーズ、意向の把握に努めている。また、本人様や家族様の思いを聞き、それを元に本人様を含めたカンファレンスを行い、ケアプランに反映していけるように努めている。 (外部評価) 要介護認定更新時期に、事業所独自の「チェックポイントシート」を用いて、身体状況や本人の気持ちの現状把握に取り組んでいる。同じ項目について家族からの情報も記入している。職員は、意思表示が難しい利用者の思いを汲み取ることに難しさを感じていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートを使用したり、本人様、家族様より話しを聞き、生活歴などの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1人ひとりの過ごし方やできる力を生活リハビリ(家事・生活動作・趣味活動等)をどうして日々現状把握につとめている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者様・ご家族様の思いを聞き取り、職員間で話し合いを行い、意見を出し合い、その内容を元にケアプラン担当者が介護計画書を作成している。また、担当中心に月末評価を行いケアプランに反映していけるように努めている。必要に応じて福祉用具相談員理学療法士・看護師・主治医・言語聴覚師の意見をお聞きし、本人様の現状にあった介護計画を作成できるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 家族来訪時に、ケアへの要望や意見を聞いてケアプランに反映している。「ポイントチェックシート」の情報をケアプランに採り入れている。プランは全員分をファイルに綴じ、職員がいつでも見られるようにしており、日々の介護記録には、長期目標の記号を入れて支援内容を記入する仕組みを作っている。毎月数名の職員で集まり、カンファレンスをひらき、「気になること」を話し合っている。又、毎月ケアプランについて担当職員が「月末評価」をまとめ、6ヶ月ごとの見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子や状態を記録に残し、利用者様の表情や、話した言葉も記入している。また、職員間で情報共有し、日々のケアに活かせるように努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者様や家族様の希望を少しでも叶えていけるようにその時に応じてサービスを利用している。また、月に1度、入居者会議や日々の会話の中で出た内容を反映しながら、サービスの提供、行事等の参加に努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 防災訓練、そうめん流し、夕涼み会等地域の方を招待し、利用者様と交流できるように努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医は利用者様に選んでいただき、内科2医院、眼科1医院、皮膚科1医院、歯科2医院、心療内科2医院に定期的に往診していただいている。内容は医療ノートに記載し職員が情報共有を行っている。	
			(外部評価) 入眠剤により、うとうとする状態や昼夜逆転が見られるようになった利用者があり、医師に状態を報告して減薬し、状態が改善したような事例がある。医療行為が必要な利用者には、訪問看護師が入り支援しているケースがある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週に1回看護師の往診があり、状態を伝え、緊急に応じ対応確認を行い、また24時間対応の訪問看護ステーションとも連携をとっている。利用者様の体調管理にも気をつけ相談している。情報の共有が出来るよう、訪問看護ステーションとの連携ノートを作成し適切な看護を受けれるうに努めている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には、病院との情報共有を行い、スムーズに入退院できるように支援している。また、退院前に細かな対応内容を確認し、退院日前日までには安心して生活できるよう準備・対応を行っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 今までと変わらない生活ができるように支援し、入居時に家族様に看取りケアの方針について話し同意書を書いてもらっている。利用者様に救急対応について主治医・家族様と話し合い、方針確認し、確認内容に沿ったケアができるよう職員間で情報共有している。	
			(外部評価) 5月に事業所で看取りを支援した事例がある。家族が泊まって支援できるように、寝具や食事の準備も行った。終末期が近くなった利用者については、体調等をみながら事業所側から提案して、利用者が娘さんやお孫さんと一緒に大好きなお好み焼きを食べにいけるよう支援したケースがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会で消防隊員の方に来ていただき救命処置・応急手当(止血・骨折時)災害時の身近にあるものでの応急手当方法の実技指導や運営推進会議時に看護師による救命処置・詰まった時の対応など職員・利用者様・家族様・地域の方をふまえて訓練を行なっている。緊急マニュアルも作成しそれに沿って対応していますが、個々の緊急対応の細かな内容は申し送り記入などで職員に周知徹底し、情報交換している。医療・家族様との細かい対応確認をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を定期的にし、避難場所等の確認をしている。消防署にも立合い指導をしていただいている。同事業所にも協力連携ができるように努め、訓練後には訓練内容、反省会内容を記入し、全職員に確認してもらっている。地域の方にも訓練のご案内のチラシを配布している。	
			(外部評価) 一階の居間から外に出るには段差があるため、キャリーで2段の階段を作っている。5月の避難訓練時には、夜間想定訓練を行い、2階ユニットは利用者をベランダまで誘導するよう、消防署よりアドバイスがあった。運営推進会議時に話し合った際には、メンバーから「近所の人達の協力が必要」とアドバイスがあり、事業所では、訓練実施のたびに、一緒に取り組めるよう声をかけたいと話していた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 理念を念頭に、全職員が個人の尊厳を損なわないよう職員同士声掛けをし、月1回は接遇のカンファレンスを行い、個人で見直す時間をもうけている。そして目標をたて、スタッフルームに掲示をし日々、意識ができるよう、朝の申し送り時定期的に声をかけあっている。	
			(外部評価) 居間の畳のスペースには、終末期を過ごす利用者が横になって過ごしており、通路側には、つい立を立てていた。職員は頻りに様子を見に行き、話しかけたり、手を擦ったりしていた。起きている時には、外の空気を感じられるように、「窓を開けておきましょうか」と言って窓を開けていた。音楽療法への参加の有無や日常の更衣時にも、利用者が選んだり決めたりする場面を作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 小さなことから利用者様に選んでもいただけるよう配慮し、個人買い物の際など、利用者様に欲しいものを確認し、選んでもらっている。利用者様が困って選んでいる時は、ご本人の思いを聞き、自己決定できるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズム(活動・休息等)その日の体調・希望に合わせて出きるだけ充実した生活ができるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出などある時、化粧・身だしなみに気を付け出かけるようにしている。起床時に洗顔・整髪・男性の方は髭そりなどに気を付け更衣を行っている。定期的な美容サービスの方が来てくださり散髪・毛染めなど利用者様と相談しながら理美容に努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生日には、その方の好きな物を食べれるように好きな物を聞きお出ししている。また、普段の食事にも利用者様の希望を取り入れている。食事の準備・片付けの際は、利用者様それぞれができることを手伝っていただき作っている。	
			(外部評価) 年1回、献立表を保健所の管理栄養士にみてもらい、アドバイスを受けている。調査訪問時には、台所のテーブルで昼食のお好み焼きを焼いており、利用者もエプロンを着け、一緒につくったり、できる様子をみたりしていた。お好み焼きは、利用者の状態により、一口大に切って盛ったり、食べにくそうにしている方には、配膳したお皿の上で切り分けていた。職員は利用者と同じものを食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 健康栄養員が作成している献立表を栄養士に確認をいただき栄養バランスの助言をいただいている。日々、食事・水分を確認し利用者様の摂取量を確認している、必要に応じて嗜好品を取り入れたり・主治医へ相談をしたり、栄養面・水分面が確保できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床・就寝・食後に口腔ケアの声掛け、介助などを行っている。ご自分でできない方、磨き残しがある方などは仕上げ磨きを行っている。歯科検診をおこない、歯科医・衛生士の助言をいただきながら個々に応じた口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中・夜間ともに利用者様にあったタイミングでトイレにいけるように、排泄チェックシートなどをつけ、トイレの声掛けや誘導を行っている。	
			(外部評価) 尿量を量る等して、健康管理をしたり、適切な排泄用品の使用に活かしている。退院時におむつを使用していた利用者について排泄チェックシートを付け、トイレ誘導にて自立に向けた支援を行っている事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医との連携をとりながら個々に応じての排便の感覚を理解するとともに便秘薬だけにとらわれず水分量(嗜好品・牛乳)・バナナ・ヨーグルト等飲食の工夫や散歩や体操・腹部マッサージをおこない予防に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 3日に1回は入浴できるようにしている。また、拒否などがあつた場合は時間をずらしたり、声掛けをする職員がかわるなどして対応している。お好みのシャンプー・リンスがある方や温度の好み等個々に応じた入浴の支援をしている。	
			(外部評価) 毎月、行事等がない3日間を選び、季節風呂の日を設けている。しょうぶ湯やゆず湯等、今月は、しょうが風呂を楽しんだ。入浴前には、効能等を利用者に伝えており好評のようだ。2階にはリフト浴があり、状態に応じて他ユニットの利用者も利用している。利用者によっては、こだわりの椅子の向きがある方があり、職員が事前にセットしている。好みのシャンプーを使用する方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様の希望に合わせ、エアコンの調整をしたり、就寝時間、眠薬の時間など個々に合わせている。日中(午後)休息のご希望にあわせ居室にて休めるように支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬チェック表を使い、服薬時には3回声だし確認し誤薬・服薬忘れの防止に努めている。利用者様の症状に変化があった場合、医師に服薬の相談をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ケアプランに沿ってぬり絵や歌・読書・ピアノ演奏など趣味を楽しんで頂けるよう努めている。また、野菜を切ったり、皮をむくなど利用者様のできることを手伝って頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者様が欲しい物がある時などには一緒に買い物にでたり、天気の良い日は散歩に出たりしている。お墓参り等家族協力を得ながら出かけられるように支援している。	
			(外部評価) 利用者と一緒に洗濯ものを干したり、一緒に買い物に行く等して外に出る機会を作っている。喫茶店に出かけたり、近くの白山神社に初詣に出かけたり、お祭りに参加したりしているが、事業所では、外出する機会が少なくなっていると感じている。	これまでの外出の習慣や希望について情報を収集したり、又、家族等とも話し合いながら協力し合って支援に取り組んでほしい。馴染みの場所や人、懐かしい場所、思い出のある場所等を訪ねたり、さらに、地域の中にちょっと出かけて気分転換を計ったり、くつろげるような場所を開拓してみてもどうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 近所のパン屋さんが月に2回来て下さり、利用者様に自分でパンを選んでいただき買い物をする楽しみなどを感じれるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望を聞き、家族様と電話できるように支援している。また、年賀状など利用者様の希望を聞きやり取りが出来るよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>リビングに季節にあった飾りつけや利用者様の写真を飾っている。また、利用者様の体調に適した室温になるように心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>庭の広場にパン屋が来た時には、利用者も外に出て好きなものを選んでい。庭では、夏場は夕涼み会を行ったり、季節によって菜園を作ったりしている。以前、看取った利用者の家族が毎月、玄関に押し花の額を飾ってくれている。今月は、コスモスの押し花を飾ってくれていた。廊下には、職員の家族が作った季節のタペストリーを飾っていた。カウンターには、庭で摘んだピンク色のハナカタバミの花を飾っていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様に適した、テーブル・椅子の高さになるように調整をしている。また、他の利用者様との会話を楽しんだり、趣味の時間を過ごしていただけるように努めている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様の使い慣れた家具(タンス・仏具等)などを持ち込んで頂き、その人らしい生活ができるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の入り口には、防災加工されたのれんに、本人の顔写真付きの表札をかけている。タンスや鏡台を持ち込んでいる方は、寒くなると床にじゅうたんを敷いて冬支度をしている。ベッドの柵に手等を挟み込まないように、段ボールでカバーしているところがあった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様のできることやわかることに対し助力することで「自信」や「やる気」を保てるよう支援している。また、リビングのテーブルや椅子の高さ、園芸用のレイズベットの導入し、自立して活動していただけるように努めている。</p>	